

図工空だより

令和4年 3月 8日

千代田区立九段小学校

校長 清水 明

図画工作科 大高 美和

5年生では、「動きの不思議」という教科書題材で、動いている感じを表す活動をしました。日常の中の動作を振り返り、実際に子供同士で体育や遊びの様子を再現し合って描いたり、冬季オリンピックにちなんで、競技のポーズを見ながら自分でも試したりしました。けれども高学年ということもあり、中には特別な動きのポーズをとるのは恥ずかしいという子供もいます。そんな子供たちの中から、日常の何気ない動作に着目して描く子供たちがでてきました。友達と手をつないでぶらぶらさせる、ランドセルを背負って階段を上る、水にぬれた手を振る、髪を手で肩からはらう、パソコンをカタカタ打つなど、日常の中のなにげない動作が数多く発見されました。子供たちの日常の視点に私も驚かされました。

本年度保護者の皆様には、図画工作科の授業にご理解・ご協力いただきましてありがとうございました。高学年になるにつれ、子供たちは学校生活も放課後の生活も忙しくなっていきます。忙しくなるとついつい単調な日常に埋没してしまいがちです。今回の「動きの不思議」を始め、図画工作科では、日常の中で感性を働かせ楽しみを見付けられるような授業にむけて、今後も取り組んでまいります。

1【2月の図工の様子】

3年生「さわい心地のいい感じ」

様々な材料を持ち寄って、さわい心地を感じながら平面に表す活動をしました。「どんなさわい心地のどんな感じ」なのかを当てる「さわい心地カルタ」をつくり鑑賞会を行いました。「同じふわふわでも違う感じがする。」チクチクとふわふわがいっしょになっている」など、触感を基にした気付きがありました。



4年生「この木なんの木」

冬の間、葉が落ちて幹と枝だけになった木の自然の形の面白さをスケッチし、それを木版に表していきます。木からイメージを広げて、鳥やウッドハウス、ブランコなど自分で付け足して物語を考えながら掘り進む子供もいます。初めての彫刻刀ですがめきめきと上達しています。自分の手の力に合わせて、描くように彫れるようになりました。



5年生 「動きの不思議」

「人の動いている感じ」を主役に表しました。生活の中で動きを感じたこと、こんな動きができればいいと思ったことを基に、実際に動きを試しながらどうすれば動いているように見えるか描き試しました。



6年生 「響き合う色と形を求めて」「12歳の力で (お休みした児童)」

スチレンボードに釘やフォークなどの跡をつけて版画を行いました。本学年では初めての版表現です。お休みをしていた子供もいるため、木工事が完成した子供たちから、とりかかっています。お休みをしていた子供たちは、腰を据えて「12歳の力で」を完成させることができました。着色やニス塗り <https://bit.ly/3MjBqXd> など一人一人のこだわりや工夫が光っています。



2 【来年度に向けての準備について】

- 足りない絵の具は買い足しをお願いします。
- パレットが汚れている場合は洗うようお声掛けください。
- 筆拭き雑巾などが汚れすぎている場合は交換してください。